

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年 9月30日(金) 5校時
 児 童 男16名 女18名 計34名
 授業者 佐々木 美香 (T1) 田畑 孝 (T2)

- 1 単元名 人物の気持ちのへん化を読み取って、なりきり日記交りゅう会を開こう
 教材名 「サーカスのライオン」 (東京書籍 3年下)
 補助教材名 (ルラルさんのにわ かた足だちょうのエルフ ちびねずみのひっこし 他)

2 単元の目標

○物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとする。

[関心・意欲・態度]

○それぞれの場面での人物の気持ちをとらえ、場面の移り変わりに合わせて変化する人物の気持ちを考えながら読むことができる。

[読むこと ウ]

○表現したり理解したりするために、必要な語句を増やすことができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)]

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。	○それぞれの場面での人物の気持ちをとらえ、場面の移り変わりに合わせて変化する人物の気持ちを考えながら読んでいる。 (ウ)	○自分の感想を表現するときに役立つ語句を増やしている。 イ(オ)

4 言語活動とその特徴

本単元では、「C読むこと」の「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと。」を重点的な指導事項とする。そのために、言語活動例「ア物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」をより具現化し、「人物の気持ちの変化を読み取って、なりきり日記を書き、交流会を開く」という言語活動を設定する。

具体的には、各場面の様子に気をつけながら場面ごとに変化するじんぎの気持ちを想像し、中心となる人物の言葉(一人称)で、全文を通して気持ちの変化が表れるようになりきり日記を書き、書いたものを交流し合うという言語活動である。中心人物のなりきり日記を書くことにより、中心人物の心情の変化を主体的に読むことができると考える。また、心情の変化をとらえるための要素(①どこで変わったのか ②どのように変わったのか ③どうして変わったのか)について方法知として一般化させ、並行読書材を使ってなりきり日記を書くことにより、子ども達は、心情の変化をとらえる力を身につけていくものとする。これらの言語活動を通して、「場面の移り変わりに注意しながら、

中心となる人物の気持ちの変化について叙述をもとに想像して読む力」を身につけさせたいと考える。

5 単元について

(1) 児童について

児童は、4月に「すいせんのラッパ」で場面の様子や人物の気持ちが伝わるように音読をしたり、6月に「ゆうすげ村の小さな旅館」で場面の移り変わりに気をつけながら出来事を読み取ったり、人物の気持ちや性格を想像しながら学習したりした。これまでの学習を通して、児童は、人物の会話や様子などに気をつけながら気持ちを想像することができるようになってきた。しかし、人物の気持ちの変化について叙述をもとに読み取ることのできる児童は少ない。

これまでペアやグループで交流する場を設けた結果、喜んで取り組む児童が多い。しかし、自分の考えを話すものの、恥ずかしがって声が小さくなる子が多く、また、友達の考えを自分と比べてり違いに気づいたりする児童は少ない。

そこで、本単元では、自分の読みをもとに自分と相手との考えを交流する場を通して、根拠となる叙述を明確にして中心人物の気持ちを想像する力をつけていきたい。

(2) 教材について

本教材は、中心となる人物が明確であり、その人物の気持ちの変化をとらえやすい教材である。また、時や場所が具体的に書かれ、起承転結がはっきりしていて場面の移り変わりがわかりやすく描かれている。さらに、一文が短く主述が明確なので、人物の言動がとらえやすい。そして、「うきうき」「ぐうんと」など擬態語や気持ちを表す言葉により、場面の移り変わりに伴う中心人物の気持ちの変化を考えやすい教材である。

よって、場面の移り変わりに注意しながら、中心となる人物の気持ちの変化について、叙述をもとに想像して読む力を身につけるのにふさわしい教材である。

(3) 指導にあたって

第一次では、別の物語の読み聞かせを行うとともに、教師の作ったなりきり日記を紹介し、単元のゴールの見通しを持たせる。

第二次では、5つに場面を分けた後、場面ごとに大体の内容をまとめる活動をする。その時、教材文全体を通して中心人物の心情が①どこで変わっているか、②どのように変わったのか、③どうして変わったのか、を視点として読む学習を行う。その際、心情の変化を心情曲線に表すことで、視覚的に心情の変化をとらえさせたい。それらの学習を踏まえ、全体を通したじんぎの気持ちの変化を確認した後、なりきり日記を書かせる。

第三次では、並行読書をしてきた本の中から1冊選び、場面の移り変わりに気をつけて中心人物のなりきり日記を書かせる。また、書いたなりきり日記を読み合い、物語を読むことの楽しさを味わわせていきたい。

6 指導計画（全 11 時間）

段階	時間	主な学習活動	評価規準	
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の作成した「なりきり日記」を見て学習のゴールを知る。 ・単元計画を確認し、単元の学習の見通しをもつ。 ・並行読書材を知り、並行読書を始める。 	【関】 物語に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 （行動観察、発言）	
	人物の気持ちのへん化を読み取って、なりきり日記交りゅう会を開こう。			
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を通読する。 ・新出漢字や難語句の確認をする。 	【言】 新出漢字や難語句を理解し、文章の内容の理解に役立てている。 （ノート）	
第二次	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を表す言葉に着目し、5つの場面に分ける。□、□、□、□、□ ・場面ごとの出来事をとらえる。 ・話の全体の流れをとらえる。 ・中心人物について知る。 	並 行 読 書	【読】 各場面を構成する要素である登場人物の行動や会話に即しながら、場面ごとの大体的内容について、登場人物を主語にして文章にまとめている。 （ノート）
	5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・じんざの気持ちがどこで変わったのか、どのように変わったのかを、叙述をもとに考える。 		【読】 じんざの気持ちの変化について（①どこで ②どのように ③どうして）を視点とし、場面を関係付けながら、叙述をもとにとらえている。 （ノート）
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・じんざの気持ちがどうして変わったのかを、叙述をもとに考える。 		
	7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・なりきり日記の書き方を知る。 ・じんざのなりきり日記を書く。 		【読】 じんざの気持ちの変化がわかる叙述に着目しながら、気持ちの変化がわかるようになりきり日記を書いている。 （ワークシート）
第三次	9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書をしてきた本の中から自分が書きたい本を選び、中心人物の気持ちの変化を考えながらなりきり日記を書く。 	【読】 場面の移り変わりに気をつけて、中心となる人物の気持ちの変化を書いている。 （ワークシート）	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・なりきり日記交りゅう会を開き、感想を交流し合う。 ・単元全体を振り返り、学習の感想を書く。 	【読】 友だちのなりきり日記を聞いて感想を伝えている。 （発言）	

7 本時の指導（5／11）

(1) 目標

じんざの気持ちの変化について、場面を関連づけながら叙述をもとにとらえることができる。

手立て①「ねらいを明確にした交流の位置づけ」

【ねらい】 →じんざの気持ちの変化したところについて考えを出し合い、一人ひとり確かにする。

【方向性】 →相手の話を聴き、意見を述べ合い、考えを明らかにする。

【子どもの状態】 →一人ひとり考えをもっているが、自信がない子どももいる。

【形態】 →3、4人グループ（一人ひとりの考えを互いに確認しやすく、いろいろな意見を聴き合え、まとめやすいため）

手立て②「子どもが交流のよさを実感することができるような振り返りの位置づけ」

じんざの気持ちが大きく変化したところについて、次の視点で振り返らせる。

ア 場面を関連づけながら叙述をもとに話し合えたか。

（交流を通して、誰のどんな意見が参考になったか）

イ 学習してわかったこと

(2) 展開

段階	主な学習活動	予想される子どもの考え	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習を想起する 2 本時の学習課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> じんざは、どこで大きく気持ちが変わったのだろう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・5つの場面を簡単に振り返る。 ・「じんざのなりきり日記を書く」ための本時であることを伝える。 ・変わったところだけでなく、変わった理由も考えることを確認する。

<p>展開 30分</p>	<p>3 じんざの気持ちの変化について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じんざの気持ちが大きく変化したことがわかる叙述を見つける。 <p>(着目させたい叙述) 「じんざの体に力がこもった。目がぴかっと光った。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・じんざの体に力がこもった。目がぴかっと光った。 ・「……ようし、あした、わしはわかいときのように、火の輪を五つにしてくぐりぬけてやろう。」 ・ぱっと火の中へとびこんだ。 ・じんざは力のかぎりほえた。「ウォーッ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・じんざの気持ちが大きく変わったところを選び、サイドラインを引かせる。また、選んだ理由も考えさせる。 ・じんざの様子や会話文に着目させる。 ・T2は、指導を要する児童への個別指導を行う。
<p>展開 30分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その叙述を選んだ理由を考える。 ・グループでの交流 ・全体での交流 <p>4 心情曲線を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面でのじんざの気持ちを考え、心情曲線でじんざの気持ちの変化を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの目は白くにごっていたのに、ぴかっと光るぐらいかがやき始めたから。 ・一番声を出して、「助けて」という気持ちが一番強いから。 ・三の場面の最後からぐっと上に傾くんだね。 ・四の場面はそのまま少しずつ上向きだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように変わったからか、根拠となる叙述を示しながら理由も考えさせる。 ・一人ひとり考えを出させ、互いに理由をきき合ったり、意見を述べ合ったりさせる。 ・全体で発表後、どこで変わったか、それぞれの考えを深められるように話し合わせる。 ・最後に、じんざの心情曲線を示し、視覚的にも感情の高まりを理解させる。

終 末 10 分	5 本時の振り返りをする		・交流を通して誰のどんな意見が参考になったか、また、学習してわかったことなどを振り返らせる。
	6 次時の学習を確認する		・次時は、じんざのなりきり作文を書くことを知らせる。

(3) 本時の評価の観点と評価規準

評価の観点	具体的評価規準	概ね満足できる状況	支援を必要とする児童への手立て
じんざがどこでどのように気持ちが変わったか読み取ることができたか。		じんざの気持ちの変化を、場面を関連づけながら叙述を根拠に読み取ることができる。	じんざの行動や会話から、気持ちが分かるところを見つけさせ、変わったところがないか、確かめさせたり、グループや全体学習の中で、友達の考えを聴き、参考にさせたりしながら支援する。

(4) 板書計画

五	四	三	二	一	
挿絵	挿絵	挿絵	挿絵	挿絵	サーカスのライオン
<ul style="list-style-type: none"> 五つの火の輪 お客は一生けん命手をき 	<ul style="list-style-type: none"> サーカスのおしまいの日 男の子のアパートが火事 ライオンの体がぐうんぐう ぱつと火の中へとびこ 力のかぎりほえた。「ウ びかびかにかがやくじ 	<ul style="list-style-type: none"> 「…、ようし、あした、 目がぴかっと光った。 もうねむらないでまっ 	<ul style="list-style-type: none"> 目も白くにごってしまった おいぼれたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> サーカスがやってきた 一日中ねむっていた。 のそりと立ち上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> サーカスのライオン じんざは、どこで大きく気がかわったのだろう。

